

P-D-6

当院入院中の乳癌患者における機能性食品の使用状況

○佐名川智子¹⁾，東村 昌代¹⁾，井倉 技²⁾，平井 啓³⁾，伊藤 壽記²⁾

- 1) 大阪大学附属病院乳腺内分泌外科看護師，
- 2) 大阪大学大学院医学系研究科生体機能補完医学講座，
- 3) 大阪大学大学院人間科学研究科人間行動学講座

The use of complementary and alternative medicine among breast cancers is high. We evaluated the prevalence and predictors of functional foods use among breast cancer patients. A questionnaire on usage of functional foods and the Hospital Anxiety and Depression Scale were delivered to 102 inpatients with breast cancer in our hospital. Eighty-three percent of breast cancer patients used at least one supplements in the past and 84% of them used before diagnosis. Those who used supplements for curing cancer likely had high HADS scores for anxiety. Our survey revealed that many of breast cancer patients originally used functional foods before diagnosis and that users for the purpose of curing cancer tended to have much anxiety.

【目的】乳癌患者は CAM の利用率が高いと報告されている。当院入院中の乳癌患者における機能性食品の使用状況と心理状態を明らかにすることを目的とした。

【方法】平成 17 年 10 月 17 日から平成 18 年 6 月末日の間，当院に入院した乳癌患者 102 名に対し，アンケート調査を行った。

【結果】有効回答率は 59%(60 名)で，機能性食品の使用経験者は 83%(50 名)であった。使用経験者のうち，調査時点で使用している者は 54%(27 名)，使用を止めている者は 46%(23 名)であった。また乳癌診断前から使用している者が 84%，診断後から使用している者が 16%であった。機能性食品利用の目的(複数回答)は，健康維持・他の病気予防 64%(32 名)，栄養補給 38%，美容 28%，乳癌の治療 28%であった。機能性食品の種類(複数回答)は，ビタミン・ミネラル類が 48%，乳酸菌製剤が 42%，キノコ類が 28%であった。患者の心理状態との関連を検討したところ，抗癌目的で使用している者は，そうでない者に比べて，がんに伴う将来・身体的問題・対人社会的問題に対する心配の得点が高く($P < 0.01$)，乳癌診断時から摂取を開始した者は，そうでない者に比べて，不安の HADS スコアが高い傾向にあった($P < 0.10$)。

【結論】当院の乳癌患者の多くは機能性食品を利用し，そのほとんどは乳癌罹患に関わらず元々機能性食品を摂取していたが，抗癌目的や乳癌診断後に機能性食品を使用しているものは不安や心配が強いことが明らかとなった。